

**市民がつくる、未来のまえばし会議**  
～自分ごと化会議 in 前橋～  
**第2回 議事録**

主催：めぶくグラウンド株式会社

共催：一般社団法人構想日本

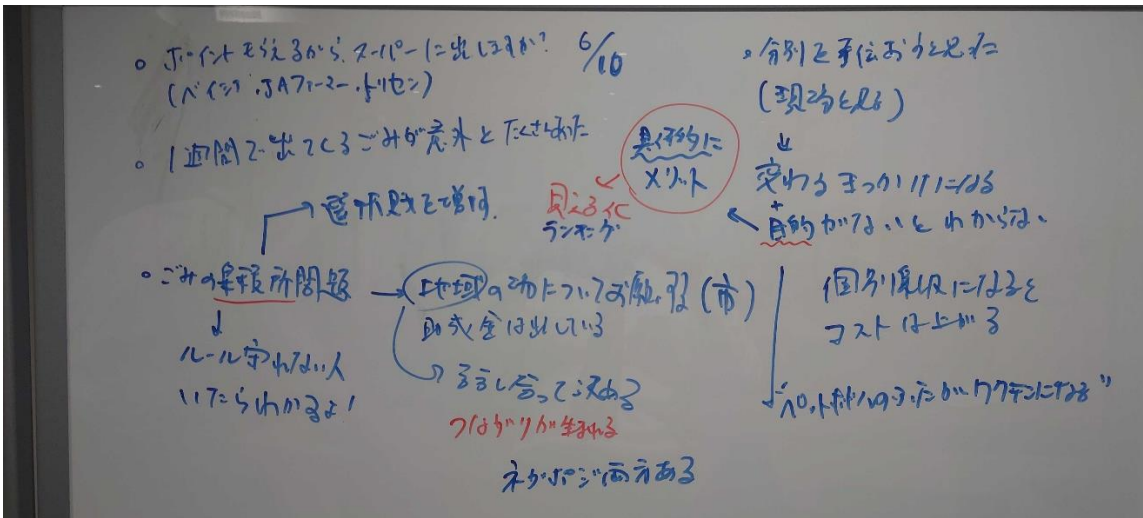
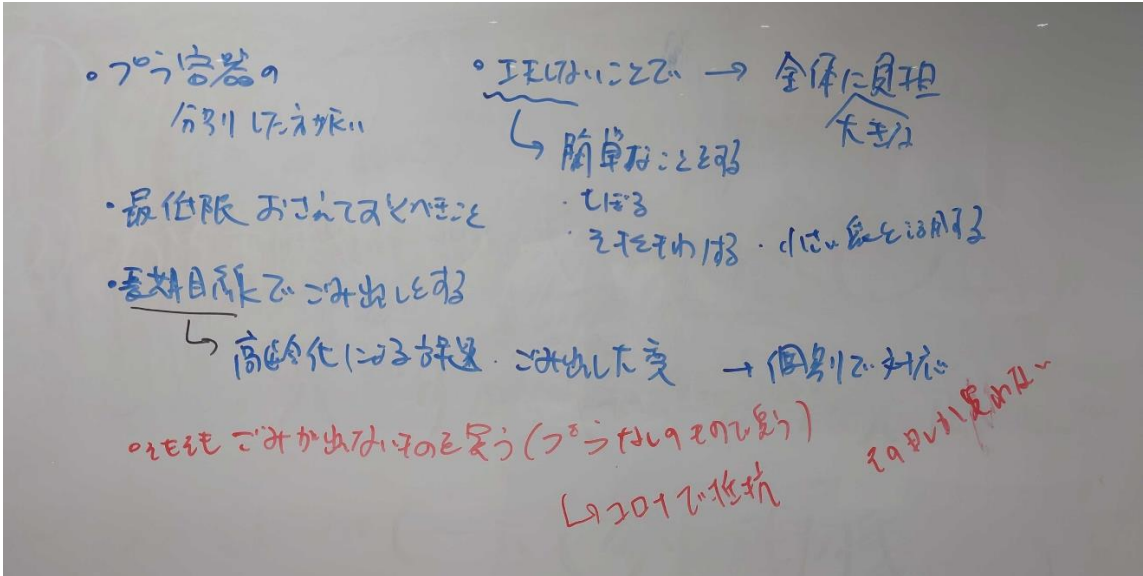
2023年12月17日(日) 9:00～12:00

## 目次

1. A 班議事錄 .....	2
2. B 班議事錄 .....	4
3. C 班議事錄 .....	17

# 1. A班議事録

(A班については機材の故障により議論の録音ができておらず、議事録作成が困難なため、当日ファシリテーターが記入したホワイトボードの写真を議事録の代用として共有させていただきます。)



◦ 二つは「=」で結ぶという人達も出てきてるよ

◦ 「知識」をどう分けるか → 100%は「知識」で、残り20%は「経験」

◦ 100%の「知識」を得る

◦ 監視カメラの設置

↓  
2つのカメラ

監視カメラ → 情報

vs 楽しい方がいい

お互いに反発してきちゃう

## 2. B 班議事録

委員：

ごみ政策課の方にお伺いしたい。いろいろと啓発のイベントを実施しているとのことだが、例えば、前橋市とJAと一緒にやっている農業まつりや地域の産業祭などに出張してコンポストを配る取り組みはしているか。

ごみ政策課：

そこまではしていない。コンポスト自体が事業者から無償でいただいているもので、大量に配布できるような数がないため、市の窓口に取りに来られる方と、イベントで興味のある方に多少お配りしているのが現実。

委員：

コンポストをわざわざ窓口に行って受け取る人はごく少ないと思う。堆肥ができるので、農業関係のイベントに来た人にあげるとか、六供清掃工場の見学に来た人で興味がある人に渡すとか、既存のものと同様に携せていくと良い。

ごみ政策課：

数が十分に用意できないというのが課題としてある。

委員：

私は一人暮らしをしていて、コンポストで堆肥を作っても使い道がないのだが、コンポストではどれぐらいの堆肥ができるのか。

ごみ政策課：

生ごみが発酵して堆肥になるのに3か月くらいかかる。できる堆肥の量は入れる生ごみの量による。

松原ファシリテーター：

コンポストでできた堆肥を買い取ってくれる制度はないか。

ごみ政策課：

そこまでは行っていない。なお、電動式の生ごみ処理機の中には堆肥ではなくパリパリに乾燥させるものもあるので、それを使って可燃ごみとして捨てている方もいる。

委員：

先ほど、プラごみとして処理すれば市が払う費用が1%で済むという話があり、すごいなと思った。そういう話を、市が発行する分別のハンドブック等に載せれば良いのではないか。こうしなさい、ああしなさいとだけ書かれると嫌になる人も出てくるが、分別すれば費用が浮く、浮いたお金を市民サービスに還元できるという

話が載っていれば、「しょうがない、やろうかな」と思う人が増えるはず。

ごみ政策課：

啓発の参考にさせていただく。

松原ファシリテーター：

行政の資料には手段だけが書かれがちだが、その目的や社会的なインパクトも書くと、個人の感情に訴えることができる。

委員：

燃えるごみの回収は週 2 回あるが、ごみが少なくなってきた、週 1 回でも良いくらいになっている。週 1 回収集にする代わりに、各家庭での戸別収集にできないか。

ごみ政策課：

家族構成等によって各家庭で出るごみの量は違うので、一律に週 1 回にすることは難しい。なお、高齢の一人暮らしの方等で、指定ごみ袋だと大きすぎるという問い合わせが来たときは、半透明の小さな袋で出しても良いとお伝えしている。

委員：

ごみの量には個人差が相当ある。週 2 回の回収でも、車が通れないくらいごみが出る場所もある。

委員：

週 2 回を一律のルールにしてしまうと莫大な費用がかかるので、例えばお正月やお盆とか、特別な時期は多めに回収するとか。

委員：

伊勢崎市で、まだ使える粗大ごみを、フリマアプリで市が販売するというのを見かけたことがある。前橋市ではそのようなことが話題になった事はあるか。

ごみ政策課：

粗大ごみのリユースは我々も課題だと感じている。リユースショップに販売してもらえれば本人の利益になるし、フリマアプリが使える方には活用してもらい、ごみとして出さない、ごみを発生させない取り組みをしていただけたら良いと思う。粗大ごみを戸別収集する仕組みもやっているが、その申し込みの方法にも工夫をしていきたいと考えている。

委員：

息子が横浜市に住んでいる。横浜市で粗大ごみを捨てる際は、コンビニ等でごみの重さ・大きさに応じたシールを購入して貼り、ごみ集積所に持って行けば処分できるので、便利だと思った。

ごみ政策課：

前橋市では粗大ごみも含め、ごみの収集は有料化していない。事前に申し込んでもらえば、1回3点まで、自宅まで回収に伺う事業も行っている。また家電製品については、買い替えの際に家電量販店に引き取ってもらうようお願いしている。それができない場合は、ごみ袋に入る場合は集積所へ、入らないものは清掃工場へ持ち込んでいただいている。

委員：

持ち込みが必要な家電製品も、有料のシールを貼れば集積所に出せる仕組みがいいと思った。

ごみ政策課：

お金を払ってごみを処分するという流れになれば、ごみを減らそうという意志が出てくると思う。財政的にひっ迫してきた場合は、そういうことにもなるかもしれない。

松原ファシリテーター：

ごみの有料化は、たくさんごみを出す人には、ごみ袋を買う際に多くお金を払ってもらいましょうというシステム。そのお金がかかればかかるほど、少しでもごみを減らそうという気持ちも増えるだろうということではほかの自治体でも検討されている。ただし前橋市はそれを行っていないので、粗大ごみの回収でお金を取ることがルール上できず、清掃工場に持ち込んでもらうということになっているのだと思う。

松原ファシリテーター：

皆さんから市へたくさん質問が出たが、これだけ疑問に思っていることがあったのに、それが聞けていないというのも、解決すべき課題なのかもしれない。

委員：

結婚して、27年前に日本に来たとき、日本はごみになる包装が多くて、必要ないなと感じた。また、ごみの分別もなんでこんなにしなきゃならないんだと思った。でも、家庭で分別をするとこんなにきれいになるんだ、いいな、と思うようになった。外国人、特に留学生はごみの分別について教えてくれる人がそばにいないので、ごみ捨てで迷惑をかけてしまっているのではないかと思う。外国人にごみの分別の大切さを伝える必要があるのでは。

ごみ政策課：

留学生の方への説明のため、日本語学校の入学式に市の職員が出向いている。

松原ファシリテーター：

今の話ですごく面白いと思ったのは、分別をどうするかという話の前に、そもそも過剰な包装はいらないんじゃないか、というところ。なかなか行政の方にそれを伝える機会はないけれど、ここで意見することで、間接的に企業にも伝わって、少しずつ改善できる話だと思う。また、文化の違いというのもある。海外では予定どおりごみが回収されないということも起こる一方で、日本のごみ処理のシステムはすごくよくできている。その上で皆さんの意識も高いので、きちんと分別がなされる。

委員：

既存のごみ回収のシステムをうまく使って、不用品をシェアする仕組みをつくれないうか。前橋市ではシェアサイクルの取り組みが盛んで、市が「自転車のまち」として推進している。同じように、不用品を「シェアしあうまち」にできればいい。

ごみ政策課：

前橋市直営でごみの収集をしている地域は、市全域のうち旧市街地の 15% だけ。それ以外の前橋市の地域は、全て民間事業者への委託で収集をしている。シェアの仕組みづくりにはなかなか時間がかかるのではないかと感じる。

委員：

子供服のリユースの活動をしている。昔は子供服を個人どうして「おさがり」としてシェアできていたが、今はそうしたつながりが減ってきているため、個人と個人の間に入って、服を預かり、次の人に繋いでいる。SDGs の意識が広まってきて、利用は増えてきたと感じている。ただ、服をいただくのにも渡すのにも、決まった場所へ来てもらう必要があるので、活動を広げていくのが難しい。古着を購入できる場所を少しずつ増やしているところではある。

委員：

私服は、フリマで売ってリユースしたり、人形やペットの服にリサイクルしたりしやすいが、制服はそれが難しい。フリマに出すと学校がばれるので、リユースできない。生地が分厚いので他のものにリサイクルもしづらい。学校で制服のリユース・リサイクルの取り組みも増やせるといい。

委員：

私たちの活動は子供服に限定しているので制服は取り扱っていないが、クリーニング店で制服バンクの取り組みを行っている。個々の取り組みの間にネットワークができれば、利便性も高まって、シェアのまちづくりができると思う。

委員：

制服は学校によって違うから、後輩が使ってくると良いのだけれど。



委員：

サイズが合わない難しい。

委員：

男子の学ランはボタンを変えればどの学校もほぼ一緒だけど、女子の制服は大変。

委員：

PTA 活動が盛んな学校では、制服を保管しているところもあるが、そういうのがないと、保管場所を誰が管理して、誰が引き渡すのかという運営の問題が生じる。

委員：

制服は難しい。ランドセルなら。

委員：

制服もランドセルも、捨てたい人、残しておきたい人両方いる。

委員：

自分は昔の思い出の品を残しておくタイプで、中学・高校の制服や使った教科書もまだ持っている。制服の話もそうだが、あるものがごみだと捉えるかそうでないかは、人によって違う。だから、不要になったものを循環させる仕組みがあるといい。

松原ファシリテーター：

制服バンクに関連した「バンク」つながりで、「フードバンク」や、それに近いもので「子ども食堂」もある。これらも食品ロスのごみを減らすことができる取り組みだが、前橋市では活動されているか。

委員：

フードバンクはあるが、今は物価が高くなって食品の寄付が集まりづらい状況。子ども食堂は群馬県も力を入れていて、各市町村に1つ設置するようすすめている。また、スーパーなどでは食品ロスがたくさん出るので、コンテナで子ども食堂に寄付したり、困窮家庭で活用してもらったりする取り組みが進んでいる。

委員：

子ども食堂の支援には、自分の高校でも力を入れている。地域でとれた野菜などを学校が集めて、それを子ども食堂に寄付している。そんな取り組みを学校や企業でやっているのがいいなと思う。

松原ファシリテーター：

一旦高校が集めて、それをフードバンク等に寄付する、中継するということですね。面白い。

委員：

同じような取り組みを、自分の会社でも労働組合が主体で行っている。

委員：

個人で集めるより組織で集めていただいた方が集まるので、協力を募りたいとフードバンクの方はおっしゃっていた。

委員：

千葉県で、スーパーのレジ袋がそのまま市の指定ごみ袋として使えるという取り組みをしていた。自分が買ったこれだけの量のごみになる、という意識がつく。

委員：

以前は前橋もやっていた。

委員：

ごみ袋に新品の食品を入れるのに抵抗感がある人はいるかもしれない。

委員：

レジ袋を買って、それとは別にごみ袋を買うのはもったいない。

ごみ政策課：

市の指定の袋を導入するときにそれがどういうものかというのを認識してもらうため、導入当初に普及啓発のために行っていた。

委員：

表にはスーパーの名前が入っているが、裏に「前橋市指定ごみ袋」と印刷されていて、ごみ出しに使えた。

松原ファシリテーター：

そういうアイデアは良いですね。プラスチックごみが減らせる。

委員：

スーパーの名前なしで、レジ袋としても使えるごみ袋を売ってしまっても良いのでは。

委員：

エコバッグを忘れて、レジ袋を買うのが嫌でごみ袋を買って品物を入れている人もいます。

委員：

ごみ袋もレジ袋も、1枚当たりの値段はあまり変わらない。

委員：

先ほどの留学生の件で、日本語学校の入学式でゴミ出しの説明をしているという話だったが、その時留学生は頭がいっぱいで、ごみの話はあまり記憶に残らないのでは。少し日常生活が始まってから説明した方が、身につきやすいと思う。

松原ファシリテーター：

確かに、日本での生活のイメージもついていないときだし、日本語学校に入学しているということは日本語も十分に理解できていないかもしれない。市の方に聞くと、明らかにルール違反なごみの出し方をしている場合は、ごみ袋を開けてごみを出した人を確認し、その人の家に行ってちゃんとルールを守るように伝えていられるらしい。それはすごいことだと思うけれど、ただ言うだけではなく、ちゃんと伝わっているのかにも気を付ける必要がある。

委員：

習慣づけるためには時間がかかる。何回も繰り返し伝えることが必要。

委員：

先ほどの前橋市の話の中で、助成金を使って電動の生ごみ処理機を購入した人の8割くらいが継続して使っているというのがあった。やってみて「良かった」と思えば、習慣化されて継続できるのだと思う。だから、分別を習慣にしてもらうためには、ごみを分別することでメリットが生まれるようにしてほしい。

ごみ政策課：

レジ袋を市の指定ごみ袋にしていた件について、導入時期は先ほど申しあげたとおり、指定ごみ袋の導入当初。しばらく継続していたが、マイバッグの持参を推奨するようになると、なるべくスーパーで袋を配るのをやめようということで廃止した。スーパーでごみ袋が無料でもらえてしまうと、マイバッグは使わずにごみ袋を貰った方がいいやとなり、ビニールごみが増えてしまうので。

委員：

無料で配るのは良くないと思うが、今はごみ袋も有料化されたので、それを前橋市の指定ごみ袋として使えるようにするだけで良いのでは。

ごみ政策課：

指定ごみ袋は市で一括して発注しているわけではなく、各製造業者に許可を出して作ってもらい、それを小売店に卸してもらっているの、現状の方式だと、市でとりまとめてどこに出すというのが難しい。

委員：

レジ袋がだんだんエコバッグになってきているけれど、ゴミ袋は今でもプラスチック。乾燥した生ゴミなどは、紙袋で捨てることにできないか。

ごみ政策課：

紙袋にすると市民のコストがかなり上がってしまう。すべての方が「環境のためならいくらでもお金を払う」という考えではない。リサイクルが大事だという思いは皆さんお持ちだと思うが、今よりコストをかけてでもリサイクルを進めていく、ということにどれだけの方が賛同してくれるのか、市としては考えないといけない。

松原ファシリテーター：

選択肢を増やすというのはありだと思う。

委員：

スーパーで袋を買うときに、普通のレジ袋と指定ゴミ袋を選べたら、私だったら指定ゴミ袋を買う。そのままゴミ袋にできるのは楽。

委員：

指定ゴミ袋の売上金は市のごみ処理費用に充てられているのか。

ごみ政策課：

前橋市はゴミ袋の有料化を行っていないので、市の予算には充てていない。

委員：

ゴミ袋の有料化は 20 年前ぐらいに市長選の争点になって、反対派の候補が勝った。有料化しないのは市民が決めたこと。

ごみ政策課：

現在の指定ゴミ袋は、単にビニール袋としての値段がついているだけ。ゴミ袋を有料化した他の自治体では、1～2 円/ℓ 程度の上乗せをしているところが多い。仮に上限の 2 円/ℓ とすると、45 ℓ の袋 1 枚につき 90 円の値上がり、それが 50 枚入りなら 4,500 円の値上がりになる。

委員：

有料化した自治体とそうでない自治体はどちらが多いのか。

ごみ政策課：

半々ぐらい。

松原ファシリテーター：

仮にごみ袋が有料化された場合、ごみを減らそうという気持ちになるか。

委員：

確実にごみを減らそうという気持ちが出る。

委員：

ごみを減らそうとなると思う。ただ、有料化についていけない人が、ごみをその辺に捨てたり、ルール違反の出し方をしたりするケースがたくさん出てくるのではないか。

委員：

現在のごみ袋の値段は全然意識していないが、値段が高くなれば、ごみを減らそうという気持ちは出る。

委員：

一人暮らしを始めたら考えるかもしれないけど、家にいるときは気にしないかも。

委員：

ヨーロッパでは生ごみ用のはかりがあって、それで計量した重さに応じた代金を払うという仕組みがある。だから、なるべく家庭で乾燥させたりして軽量化している。それが普通だと思えば、普通にやれると思う。

委員：

有料化したら、「高いお金を払っているんだから」という気持ちになって、きちんと分別しなくなるのでは。

石井コーディネーター：

有料化している自治体（神奈川県逗子市）の職員としての情報提供。私の市では、45ℓのごみ袋を1枚80円で売っている。その代わりに、可燃ごみと不燃ごみだけを有料にして、ペットボトルと容器包装プラスチックは無料にした。その結果、可燃ごみが減って、容プラの方がたくさん出るようになった。来年から、生ごみも別の小さな有料の袋で回収する予定。ただ、有料化はお金のない人には負担になるので、生活保護やひとり親の世代には無料で年間何枚か配っている。

松原ファシリテーター：

逗子市は1枚80円とのことだったが、皆さんだったらどれくらいの値段まで受け入れられるか。また、どれくらいの値段ならごみを減らそうという気持ちになるか。

委員：

世帯によって違う。自分は一人暮らしで、ごみは出しても週1袋なので、80円ぐらいは気にせず支払う。

ただ、これが週 2 袋出す家庭だったりすると、家計のためにごみを減らすようになりそう。

ごみ政策課：

ごみ袋の有料化の目的の一つとして、たくさんごみを出している人も、分別をしてごみを減らしている人も、ごみの処理費用は税金として同じだけ負担している、という不公平を解消するというのがある。一律ゼロ円なのが公平なのか、ごみを出した量に応じて負担するのが公平なのかは一考の余地がある。

委員：

県内で有料化の自治体はあるのか。

委員：

あまり聞いたことがない。

ごみ政策課：

有料化が多いのは、東京の特別区以外の地域。

委員：

私は田舎に住んでいて、庭に咲いた花、落ち葉、野菜のくず、食べきれない大根の葉っぱなどがごみとして出る。私はそれを細かく刻んで一つの袋に詰めて捨てているが、人によってはそれができない方もいて、袋に入れず束ねてごみに出している。もしごみ袋が有料化されたら、束ねて出す人がかなり多くなるのではないかと。また、枯れ葉は自分の家から出るものだけではない。街路樹の枯れ葉も入っているわけだから。それを全部有料の袋に詰めて出せるかと言われると、考えてしまう。野菜くずはコンポストを使えばよいかもしれないけれど、枯れ葉は困る。

石井コーディネーター：

おっしゃるとおり。そのため逗子市では、草・葉・植木ごみは無料にしている。また、ボランティア用のごみ袋は無料で配布している。

委員：

前橋市でも、ボランティアで使う公用のごみ袋は市からもらえる。

委員：

私の学校には朝の落ち葉清掃という活動があって、クラスごとに順番に回ってくる。それがこの間あって、8時前にみんなで集まって、学校の前の公園や道をきれいにしている。嫌がっている人もいるけれど、みんなでおしゃべりしながらやっているとそれも楽しい。まちの人から学校にお礼の電話をもらえたりもする。

委員：

ごみを減らせば、ごみ処理にかかる税金が減るという話が出ていたが、最終的な目標は税金を使わないようにすることでもごみを減らすことでもなく、自分たちが暮らしやすくなること、幸せになることがゴールだと思う。そこは見落とさないようにしたい。

委員：

環境的な暮らしやすさとお金的な暮らしやすさは少し違う。例えば、ごみが落ちていない、ごみを捨てる場所が近い、サービスが充実しているというのは環境的なもので、お金のものは個人個人で違う。個人の環境を把握するのはすごく難しいけれど、環境の把握がうまくいくと段階化できてそこからまたサービスを変えられて無駄がなくなるので、だから公平かどうかが変わっちゃうので、そこをごみ袋の有料無料というところで分けられたらいいと思う。

松原ファシリテーター：

今日の市からの説明では、啓発活動を色々行っているということだったが、皆さんの側にあまりその実感がなさそうで、どうしてだろうと思った。

委員：

配られる資料には色々なことが細かい字でいっぱい書いてある。これをよく読む人は、既にちゃんと取り組んでいる人であって、そうでない人は読もうと思わない。一番伝えたいことだけが簡潔にパッと目に入るほうがいい。例えば市の広報誌に毎月決まったスペースを設けて、そこにごみの情報を載せるなどしてはどうか。

委員：

今日の会議でも皆さんからいろいろ意見や良いアイデアが出てきているけれど、それを市のどこに問い合わせたらいいのかわからない。一元化した窓口はないのか。

ごみ政策課：

ごみ政策課が窓口になっている。

委員：

窓口がたくさんあって、電話すると「違います」と言われる。

委員：

実際に市民からのアイデアを採用するかどうかは市側の事情もあると思うが、市役所にアイデアを伝えられる窓口を設けてほしい。また、アイデアのコンテストを開くなど、市民のアイデアを吸い上げる取り組みがあるといいのかなと思った。

松原ファシリテーター：

ごみ政策課の代わりにお話しすると、ごみ政策課は毎日電話が鳴りやまないぐらい、ごみに関する問い合わせを受けている。その負担を少しでも減らすため、アプリやチャットボットの活用を進めているところ。また、もしかしたら一人ひとりの市民の意見として行政に伝えるよりも、たとえばこの自分ごと化会議で作成する提案書のように、住民の意見をまとめあげた形で行政へ届けた方が重宝されるかもしれない。そういったことが「めぶくファーム」のアプリでできるようになるかもしれない。

委員：

市の業務が増えないような形、例えば電話ではなく web 上のフォームで文章で募集するとか、方法はいろいろ考えられる。

委員：

アイデア専用電話を設けるとか、アイデアを出したらご褒美があるとかすればいい。

委員：

居酒屋では、「何でもいいからクレームを言ったら 100 円引き」の取り組みをしているところがある。クレームには改善すべき問題が集約されているので、このようにアイデア出しではなく、何に困っているかを聞くというの手では。ただ、人は無料ではなかなか動かないので、何か還元できるものは用意しないといけない。

委員：

クレームコンテストをすると、クレームを受ける側の処理が大変。AIを活用して、入っているワードによって問題を分類できないか。

委員：

生ごみ処理容器・電動式生ごみ処理機の購入費の補助金の申請が 4 か月で埋まってしまうという話があったが、来年度はすぐに埋まってしまうよう、もっと多くの予算をとってほしい。

ごみ政策課：

来年度の予算の増額は予定していない。現状維持の予算を確保するので精いっぱい。予算を確保するため、アプリ「さんあーる」の広告枠の増、ごみカレンダーの広告料の増額などの手は打っているが、ごみ分別ガイドブックの増刷もできない状況。

松原ファシリテーター：

ごみ袋を有料化すると生ごみ処理機の補助に回せる予算は増えるのか。



ごみ政策課：

ごみの収集だけでも年間 7 億 7700 万ぐらいの費用がかかっており、仮にごみ袋を有料化しても、その収入が生ごみ処理機の補助へ優先的に回されることはないと考えている。

松原ファシリテーター：

クレームコンテストについて、ただクレームを言う・聞くだけではなくて、市民と行政がお互いの考えを伝えて分かり合うような仕組みにできるといいと思った。

委員：

クレームコンテストはごみに限定して行うのではなく、前橋市に対する不満を聞く 1 つのセクションとしてごみを位置づけてはどうか。

ごみ政策課：

市への提言・意見は、市民協働課という部署で受け付けている。市役所で投書もできるし、メールでも意見できる。

委員：

ワイワイやりながら参加できるぐらいの気軽に参加できるイベントにしては。

委員：

高校生は web サイトもチラシも広報誌も見ないので、学校のホームルームの時間などに、URL を共有して触ってもらうのがいいかなと思う。他の取り組みでもやっている手法。

委員：

市がごみ処理にあまりお金をかけられないという現状を、子供たちを通じて親に伝えてもらう、それが一番伝わると思う。大人は興味がある事にしか目を向けられないけれど、小中学生の子どもに「家に帰ったらお父さんお母さんに伝えてね」と言えば、親は子どもの言うことを聞くので。

委員：

学校教育の中でごみについて教えるのは大事なことだと思う。その教育を受けた子どもたちが大人になっていくのだし、こういった会議に来たり、ごみの資料を読んだりするのは興味がある人だけになってしまうが、学校教育のなかで、興味のありなしにかかわらず全員が学ぶ機会を作れば、それを家庭にも持ち帰ってくれる。

### 3. C 班議事録

今泉ファシリテーター :

前回総論としてあった 1 人でも多くの人が行動するためにどうしていけばいいのかみたいなところから、始めたい。どんな解決策があるのかを最終的に全体で作っていく、その整理の仕方として、前橋市に対して期待すること、一方で自分自身もこういうことできるんじゃないかなという改善策、もしくは会社や学校などの小集団で、例えば地域でできること。大きく 3 段階に分けて解決策を整理していきたい。

委員 :

小学生巻き込むのは良い。子どもが興味を持つのは楽しいこと。さんあーのアプリをやってみたけど、子どもには分かりにくい。ゲーム形式で出来ると良い。

委員 :

さんあーのアプリは紙の資料より分別は分かり易くはなっていたが、子ども視点では分からない。子どもも親も分かり易くできるようにして欲しい。クイズ形式にするとか。具体的に提示して欲しい。分別のガイドブックとかもあるが、書いてあることに該当しないところで分別の出し方が分からない事がある。例えば値引きシールはどうするのか？そのまま大丈夫なのか？

ごみ政策課 :

シールを熱ではがす工程があるので、大丈夫。全ての分別の疑問に答えを予め準備するのは難しい。

委員 :

多くの人が気になるものは拡充して欲しい。必要な時に必要な情報が欲しい。チャットボットがその役割ではないか。

今泉ファシリテーター :

分かり易さが突破口ではないか。楽しさが大事だからゲーム形式が良い。具体的なことが分かるような拡充が必要。

子どもにフォーカスすることも大事。子どもにどういう情報を提供すべきかとか、誰にフォーカスするかで考え方も変わりますよね。

委員 :

環境教育でやっている中で、子どもはかなり知っている。子どもを入口に、親とか祖父母に伝わる仕組みが必要ではないか？大学生もよく知っている。学校はかなり詰め込んでいて、今以上に学校で教えるのは限界ではないか。子供は学校でという考えも一つあるんですけど、そこを抜け出して、もっと家族とかそういう範囲で子供にアピールしたりとか、家族にアピールしてしていった方がいいのかなと思ったりする。

小平市の取組みで、環境そのものをイベントにしている。ゴミゼロフリーマーケット。リユースとか賞味期限の短いものを子供食堂に寄付したりする。参考になるやり方があるのではないか。

委員：

前橋市でも清掃工場で行っていた。5年以上前。フリーマーケットみたいな。知っている人はどれくらいいるのか気になる。なくなっているのか？ゴミ焼却場の見学は今もやっているのか？

ごみ政策課：

やっているが、ゴミ処理の全行程が見られる訳ではない。4年生。可燃工場で行っている。

委員：

ペットボトルの選別が手作業なのは驚いた。

今泉ファシリテーター：

分別した後はどのように処理されているのかみんな知らないのではないか。動画で見せるのは効果的ではないか。人件費がどのくらいかかっているのかみたいな話は効果的。そこで働いている人が、すごいエネルギーや問題意識をもって業務に取り組んでいるのも間違いない。

委員：

どうやって、そういうことを広めていくのか。例えば工場見学の考え方も見直しがあっても良いのではないか？視点を変えたらもっとアピールできるのではないか。

委員：

夜中の1時に帰ってきた時に、清掃工場から煙が出ていた。そういったゴミ処理の現場があることをアピールするのも良い。大変な作業をしていると思った。

ごみ政策課：

24時間フル稼働して焼却している。土日も。正月を除いて稼働している。

今泉ファシリテーター：

現場があることが伝わると良い。

委員：

ゴミの量はどうなっているのか？1人あたりはどうなのか？

ごみ政策課：

ゴミの総排出量はこの数年微減している。10年計画を立ててゴミを削減していて、来年在10年目。1人あたりの量も減ってきている。平成31年がピークで一番少なかった。コロナの令和2年は増えたが、また落ちてきている。

委員：

団塊ジュニアなんですけど、子どもの時にゴミがそんなにあった記憶がない。ゴミは増えたのかと思っていた。ゴミについて親世代から言われたことがない。根本的に何でゴミが増えたのか考えるべきではないか？

委員：

大量生産、大量消費していた時はゴミに考えが及んでいなかったのではないかな？その後環境問題が出てきて、ズレて減らす議論が出ている。

委員：

昔は各家庭でゴミを燃やしてた。環境や安全のために、各家庭でゴミを燃やすことはなくなった。集積してゴミを燃やすようになった。

今泉ファシリテーター：

時代背景を知りたいということもあるということですね。  
話を戻します。情報発信戦略を考える、誰にどう伝えたいか考える、伝える媒体を考えるということが大事。

委員：

色々な話を聞けるのが楽しい。勉強になる。子どもがいるが、高校生と大学生。教えた訳でないのにゴミについても良く知っている。

今泉ファシリテーター：

行政にとって参考になりますね。

委員：

流れから外れます。生ゴミを堆肥に変えるのは、自然の循環に乗せることになる。可燃ゴミに出したらそのサイクルを断ち切ることになる。でも難しい。落ち葉や草の問題。小さい庭だが、すごい量がでる。今年は堆肥に変えようとしている。植木鉢に落ち葉を入れて何回も水をかけながら踏み固める方法。(資料を回覧) 落ち葉や草も可燃ゴミとして出す人が圧倒的に多いが、処理に税金がかかっている。であれば、市で落ち葉を可燃ゴミとしてではなく資源として収集する方法はないか？その方が自然の循環になるのではないかな？公園とかの落ち葉はどうしているのか？1人ひとりでやるより、まとめてやった方が良いという視点はないのか？

ごみ政策課：

今はない。生ゴミの各家庭の助成はしているが。山林とか大きい土地を持っている村とかであれば、集積所を作って、例えばバイオマスの発電所があったりして、やっている可能性はある。前橋はそこまで需要がないのではないか。公園の落ち葉は、現状はお金を出して処分している。民間と組んで、有効活用できないか、循環させられないか検討はしている。

委員：

私は環境アドバイザーをしている。出張授業もやっている。もっと活動を知らしめる方法はないか？県と市がもっと連携するべき。

太田の小学校で準教育として家庭科の手伝いに行った。牛乳のプラスチックストローがなくなっていた。そういう取組みを家にも持って帰られると良い。

今泉ファシリテーター：

自然の循環っていうキーワードがありましたかね。

環境アドバイザーは県ですよ。誰でも申請すればなれる。出張授業もできる。啓発活動もやっているんですよ。ここで出ている無理なく分かり易く楽しくという話と実際の現場の乖離はありますか？

委員：

風車で電気を起こす実験や太陽光で焼き芋を作ったり、楽しくやっている。かまどでご飯と炊いたり。誰でも参加できる。体験型イベントもやっている。啓発の方法は、環境アドバイザーになって、グリーンニュースを出している。県のホームページ。エコ群馬で検索すればサイトが出てくる。群馬県が作っているページ。担当ではないが、学校にも広報していると思う。

行政は縦割りが残っているが、準教育は横断的にやっている。住宅部門と環境部門で。行政も横断的にやればもっと広められるのではないか。

委員：

コンポストとかの活動はちょっと面倒臭い。やってみれば楽しいかも知れないが。一般の人はゴミが増えても良いと思っている訳ではないが、時分につながっていない。みんながイベントに参加できるわけではない。無理なくできる仕組みがあると良い。

私は長野県諏訪市出身。自治会の人、市に一か所しかないゴミ集積所に立って、しっかり管理している。ゴミ袋に名前を書く。罰則的かも知れないが、しっかりゴミ出しがなされている。ゴミを増やしたい訳ではないが、できていない漏れた人にアプローチできると良い。

イオンでゴミを出すとポイントが貰えるということをやっていた。直接自分に良いことがあれば、自分ごと化されるかも知れない。減らすと自分にメリットがあるとか。イベント参加して楽しくできるのは良い。自分にとってお得とか楽しいとかあるのが大事。

委員：

ビニールを使わず、古紙をつかってゴミを捨てたりする知恵を上世代に教えて貰った。

今泉ファシリテーター：

ポイント制を導入している自治体はある。

何十も細かく分別している自治体もある。大変で、面倒臭いがポイントがあればやれている自治体もある。

どう広めるのか？

委員：

始めが肝心。入口。最初ポイントが沢山貰えるとか。そこに労力をかけるのが良いのではないか。そうした上で習慣化させる。

委員：

ゴミ出しは、今は他人事。生ゴミを絞るのも市のため。でも自分のためにできるようになると良い。自分ごとになる。

委員：

デスポーザーは初期費用も維持管理もある。お金持ちのイメージ。一般用ではない。

委員：

下水道の処理の負担が増えないかと心配にもなる。

委員：

設置は面倒だが、前橋はバケツにゴミが貯まるから下水からは取り除ける。

委員：

でも全てが取り除ける訳ではないのではないかと。結局下水道処理に負担がかかれば、可燃ゴミで燃やすのとコストに差は出ないのではないかと心配になる。

委員：

デスポーザーは水分が切られるから水を一絞りする手間がないし、デスポーザーは環境に良いと思われる。コストが高く、メンテナンスや管理が大変だが、下水的には良いし、全体として環境には良いはず。

委員：

コンポスト問題について話したい。庭がない場合はどうするのかという話が出たが、農業の人と組んで、堆

肥を作るという取組みが他の自治体であった。そうすれば庭のない家庭でも参加できる。

委員：

各家庭ではなく、まとまった形で、資源を循環させられる事例はないか？

委員：

高崎の産廃業者さんが、学校の給食の残飯を集めて、製材所からおがくずを集めて、豚が足で踏んで、畑の栄養にする。豚の糞とおがくずと食べ残しを使って、野菜を作っている。そういう循環を作る活動をしている。

個別のことではなく、環境全体としての影響を考えるべき。地球への影響を考える機会を提供するべきではないか。そうすれば自分に返ってくるのが分かる。そういうことを意識することが大事。

日本は人口が減っていて、ゴミが減っているかも知れないが、世界とか地球の視点を持ったり、人間だけでなく環境のことを考えることが大事。そういう動画を見せるべき。そういう教育が大事。

リサイクルという言葉だけではなく、何にリサイクルされているのかまで教えて欲しい。今日の資料ではリサイクルした後、最後どうなっているのか分かりにくい。ゴミを資源として考えられるようになると良い。

ごみ政策課：

学校に行っているのは、ゴミの種類を教えて、どうリサイクルされているのかを教えている。ゴミの流れ。分別の仕方にフォーカスしている。全国、世界的に見た視点は、今はない。清掃工場の見学も2時間くらい。説明は30分くらい。その中では、分別などの身近な説明になる。大きい話も必要なのは分かるが、大きい話から自分のことにつながるところまで説明が必要。

委員：

工場見学単独ではなく、前後が大切。教員も足りないところを授業で説明していると思う。